

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 6 月 12 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	川口ゆり

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
日本、横浜	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
よこはま動物園ズーラシアでのチンパンジーの観察及び写真撮影	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 29 年 6 月 12 日	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
よこはま動物園ズーラシア	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>私の目下の研究テーマは、チンパンジーの乳児に対する情動反応の比較認知科学的検証である。その実験に用いる写真や動画を撮影するため、よこはま動物園ズーラシアを訪ねた。ズーラシアには生後三週間のチンパンジー1個体を含む、10個体のチンパンジーが暮らしている。乳児と群れの他個体との交渉を観察することも目的の一つであった。</p> <p>10時半から閉園の16時半まで6時間滞在し、ほとんどの時間をチンパンジー舎の前ですごした。乳児のハルは生後一か月とたっていないため、常に母親に抱かれており母親の腹に顔をうずめていることが多く、撮影するのは困難だった。しかし、オヤツのトマトが与えられるときには母サチコが近くに来たため、なんとか撮影することができた。サチコは40歳の比較的高齢な個体だが、寛容な性格らしく他のチンパンジーがハルを触りに来ても嫌がるそぶりを見せなかった。対応いただいた平賀氏に話を伺うと、群れの仲間に自分からハルを見せる挨拶回りのような行動がみられたくらいだそうである。5歳の上の子が母乳を求めても拒絶することなく、ハルを抱きながら遊んでやることもあった。</p> <p>長時間にわたって観察、撮影したため少し疲労したが、心ゆくまで撮影できたため非常に達成感があった。母子以外のおとなや子どものチンパンジーを撮影できたのも満足だった。ハルが乳児のうちに可能ならば再度訪れ発達の変化を確認したい。</p>	
	
ハルを抱きながら姉のフクが乳を飲むのを許すサチコ	ハルのベストショット
<b>6. その他</b> (特記事項など)	
飼育担当の平賀氏にお話を聞かせていただき、お世話になりました。また今回の出張はPWSプログラムの支援を受けておこないました。記して感謝申し上げます。	